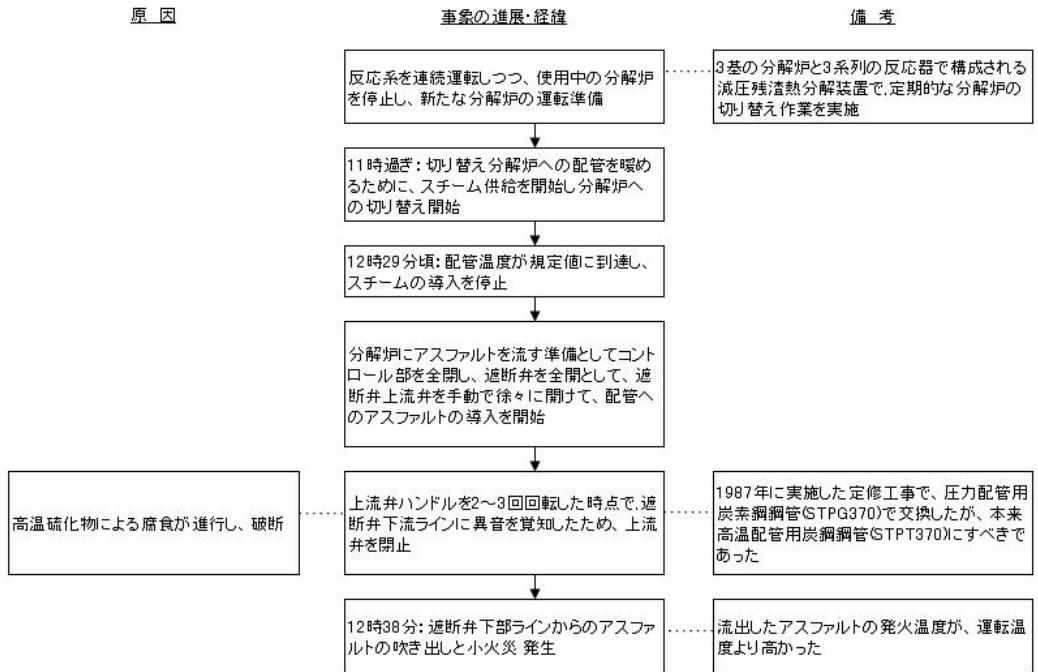




減圧残渣熱分解装置の配管破損によるアスファルト火災

事象進展図

00521	減圧残渣熱分解装置の配管破損によるアスファルト火災
発災年月日	2005年4月13日
装置	減圧残渣熱分解装置
運転状況	運転準備作業でアスファルトを配管に導入
特徴	本来高温配管用炭素鋼鋼管(STPT370)を使用することろ、圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370)で交換した



再発防止策

- ① 既存配管材質、使用基準が類似する配管系の全面検査
- ② 事業所基準書の改定
- ③ 施工管理の徹底

安全専門家コメント

① 化学プロセスでは温度、圧力、流体などに対応して適切な材質の選定が重要である。材質選定を誤らないための、材料データベースの整備やその適切な運用が重要である。
 ② 化学プロセスで使用される流体の多くは、可燃性、発火性物質であり、危険物性を把握し漏洩などでの火災リスクを事前に把握する必要がある。

引き金事象発生の原因

・圧力配管用炭素鋼鋼管の腐食進行

事故の引き金事象

・遮断弁下流ラインの破断、漏洩

事故に関連した直接・間接要因

《情報要因》物質特性・危険性の評価・検討不足；配管材料の選定ミス
 《保守・点検要因》保守・保全不良；点検による腐食の未発見



減圧残渣熱分解装置の配管破損によるアスファルト火災

添付資料・参考文献・キーワード

参考資料（文献など）

自治消防

▶ 添付資料

▶ キーワード(> 同義語)

🔑 減圧残渣熱分解装置

🔑 アスファルト > AS

🔑 配管 > パイプ

▶ 関連情報